

**高齢化社会における運転寿命延伸を目指し、  
2分で眼の健康をセルフチェックできる新デバイス「MEOCHECK(メオチェック)」を開発。  
日本交通タクシードライバー定期健康診断に導入へトライアルを実施。**

株式会社 QDレーザ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：菅原 充）は、都内最大手のハイヤー・タクシー会社である日本交通株式会社（東京都千代田区紀尾井町、代表取締役社長：若林泰治）の従業員向け定期健康診断において、自社のレーザ網膜投影技術を応用して開発した MEOCHECK による眼の健康チェックを実施します。

【健康診断概要】

- イベントタイトル:日本交通:従業員定期健康診断 三鷹営業所
- 開催日時: 2022年11月14日(月)―18日(金) 8:00-10:30
- 参加人数: 約700人
- MEOCHECK 台数:10台
  
- イベントタイトル:日本交通:従業員定期健康診断 新木場営業所
- 開催日時: 2022年11月22日(火)―25日(金) 8:00-10:30
- 参加人数: 約400人
- MEOCHECK 台数:8台

【日本交通様の眼の健康チェック】

日本交通様の全国約1万人の従業員のうち新木場と三鷹の営業所の千人余りの定期健康診断で、MEOCHECK(メオチェック、写真1)を使った眼の健康チェックをトライアルとして実施します。2分程度の簡単な操作で両目の視野の状態をチェックし、必要があれば眼科受診をしていただけます。

MEOCHECKは軽量コンパクトな可搬型の機器で、タブレットにつないで使います。長機の半分ほどのスペースで設置可能です。チェックを受けた人はその場で測定結果である視野の状態をタブレットの画面で見ることができます。詳しい結果は、QDレーザのデータ解析の後、後日会社に届けられます。また、眼のチェックによって眼科の受診をした方がよいと判断される結果が出た場合は、その旨ご本人に会社を通じて受診が勧奨されます。

眼の健康チェックをすることで、緑内障や白内障など、早期治療の効果が高い疾患を自覚し、長く安全に就労していただけるシステムが、さらに一歩前進します。



写真1)MEOCHECKを使った眼の健康チェックの様子  
長機半分ほどのスペースを使います。

【日本交通株式会社 代表取締役会長 川鍋一朗様 コメント】

「メオチェックとの出会いは衝撃的でした。目の検査は必要だと理解していても、費用と時間のハードル

が高く踏み出せずにはいましたが、自分でも試して本当に2分で完了し、あまりの手軽さに1000名規模での大規模テスト運用をすぐに決めました。日本交通は、タクシーの安全にテクノロジーをフルに活用し、この流れをタクシー業界全体にも広めてゆきたいと考えております。」

### 【緑内障などの眼疾患】

緑内障は日本における中途失明原因の第1位であり患者数は400万人、40歳以上の20人に1人が発症していると言われております[1]。発症すると年齢とともにゆっくり進行していきますが、点眼薬等の治療や手術加療で進行を遅らせるので、早期発見、早期治療が有効です[2]。

また世界では、白内障が失明原因の第1位を占めます[3]。日本では、個人差はあるものの、中年以降、徐々に進行し、80歳に達すると罹患率がほぼ100%に及びます。年齢を重ねるほど発症率が高くなり、50代で約半分、60代で約60%、70代で約80%、80代ではほぼ全員の人に、水晶体ににごりを生じると言われています[4]。

しかし眼科の健康診断は普及率が低い上、緑内障や白内障の発症初期は自覚症状がほとんどないために、交通事故を含む様々な事故の原因になるケースや中途失明をまぬかれないケースが多くあり、社会的な問題になっています[5]。

### 【QDレーザの「MEOCHECK」(写真2)】

MEOCHECKは、QDレーザ独自のレーザ網膜投影技術を応用した装置で、短時間の簡単な操作で視野の様子をチェックできます。測定結果は、被測定者の見え方を図にして得られます。

MEOCHECKは眼科で使われている視野検査装置に比べて、小型で安価であるだけでなく、使い方も簡単で専門家の立ち合い・操作を必要としません。体重計や体温計のように家庭や事業所に設置すれば、点呼時などに短時間に見え方をチェックでき、眼科受診のきっかけにすることができます。定期的なチェックで、視野狭窄や視野欠損などの視野障害に早く気づき、眼科を受診して治療を始めれば、病気の進行を遅らせることができます。

QDレーザは現在、「見える」ことが業務上大切なタクシー会社と、東北大学を含む国内大学・眼科病院と共に、事故防止・雇用維持・失明防止を目指した目のセルフチェックシステムの構築を進めています。

これまでに、MEOCHECKを使ったチェックにより、高齢化に伴う視感度の低下を見出すとともに、各眼疾患の早期スクリーニング効果の検証を実施しました<sup>注1)</sup>。

注1:本研究は、厚生労働省、経済産業省、文部科学省が告示した「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて行っています。

### 【網膜投影機器の社会実装】

(株)QDレーザは本年度、「視覚障害者支援」「眼の健康維持」「視覚拡張」の3つの分野で、新しいレーザ網膜投影機器を製品化します。この度使用する「MEOCHECK」は「眼の健康維持分野」の製品で、発売開始は来年年3月を予定しています。



写真2 簡易型眼の健康セルフチェック装置 MEOCHECK(メオチェック)

国土交通省は今年3月、ドライバーの視野障害が原因となる事故を防ぐために、「自動車運送事業者における視野障害対策マニュアル」を自動車総合安全情報ウェブサイト上に公開しました[6]。高度の視野障害を有する運転者が、自身の疾患に気付かずに運転を継続している場合、信号や標識を見落とすことなどにより、重大事故を引き起こす可能性が高まると警鐘を鳴らしつつ、視野障害の早期発見と治療の継続により、ドライバーの運転寿命を延伸できるとしています。交通事故を防ぐために自動車運送事業者が取り組む内容として、定期健康診断時の眼科健診、点呼等で症状の有無の確認、症状が現れた場合の眼科精密検査の受診の指導を挙げています。

また、警察庁は2017年に「高齢運転者交通事故防止に対策に関する提言」の中で、取り組むべき今後の方策として、認知症と並んで視野障害による運転リスクについて言及しています[7]。特にバス、トラック、タクシー業界のドライバーの高齢化に伴う、眼の健康チェックの日常化は急務となっており、MEO CHECKの貢献が期待されているといえます。

[1]厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究

[2]中澤 徹 ,有効な検査から見えてくる新たな緑内障の世界、日本視能訓練士協会誌/47 巻 (2018)p. 7-13

[3] WHO Global estimates of visual impairment 2010

[4] 厚生労働省「第4回 NDB オープンデータ」

[5]国土交通省事故防止セミナー”視野障害と交通事故”

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03safety/resource/data/seminar006.pdf>

[6]「自動車運送事業者における視野障害対策マニュアル」

[https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03manual/data/visual\\_field\\_impairment\\_manual.pdf](https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03manual/data/visual_field_impairment_manual.pdf)

[7]「高齢運転者交通事故防止に対策に関する提言」

<https://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/koureiunten/kaigi/teigen/honbun.pdf>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 QD レーザ 視覚情報デバイス事業部

メール:[retissa@qdlaser.com](mailto:retissa@qdlaser.com)